

右ニ對シ本使ハ佛國政府ニ於テ其ノ蘇聯邦トノ關係改善ニ依リ間接ニモ日本ニ壓迫ヲ加ヘントスル意思ナカルヘキハ本使個人トシテ充分承知シ居リ一點ノ疑惑ヲ抱キタルコトナキモ責任アル外務大臣ノロヨリ右事態ニ關シ充分ノ説明及「アシュアランス」ヲ與ヘラレタルコトハ本使ニ於テ頗ル重要視スル次第ニシテ日本政府ニ於テモ大イニ欣幸トスル所ナルヘシト思考スル旨答へ置キタリ

次テ同外相ハ從來日佛間ニハ國交上別段懸念スヘキ點ナク佛國政府ニ於テモ安心シ居リタル處最近ニ至リ思ヒ掛ケナク南支那海諸島ノ問題突發シ自分トシテハ頗ル遺憾ニ感シ居レリ元來同島ノ占有ハ一九三一年佛國海軍ノ申出ニ依リ單純ナル航海ノ安全保障上必要ナル設備ヲ爲ス目的ヲ以テ佛國政府ニ於テ之ヲ爲スコトニ決定シ爾來佛國海軍ニ於テハ其ノ目的ヲ以テ行動シ來レルモノナル處突然本年五月頃ニ至リ日本政府トノ間ニ紛議ヲ生シタル次第ニシテ日佛國交上一抹ノ暗影ヲ投スルニ至レルコト返ス返スモ遺憾トセ

(欄外記入)
サルヲ得ス佛國政府トシテハ法理上何等ノ支障ナシトシテ

佛國政府ニ於テ之ヲ爲スコトニ決定シ爾來佛國海軍ニ於テハ其ノ目的ヲ以テ行動シ來レルモノナル處突然本年五月頃ニ至リ日本政府トノ間ニ紛議ヲ生シタル次第ニシテ日佛國交上一抹ノ暗影ヲ投スルニ至レルコト返ス返スモ遺憾トセ

占有ヲ實行シタルモノナルモ萬一其ノ法的根據ニ異議アラハ喜テ本問題ヲ國際司法裁判所ノ審理ニ附スルニ躊躇セサルヘク純然タル法律問題トシテ國際裁判所ノ判決ニ委スルヲ以テ本問題ノ最合理的ナル解決方法ナリト思考スル旨ヲ述ヘ頗ル關心ノ色ヲ示セリ本使ハ之ニ對シ本問題ニ關スル日佛兩國間從來交渉ノ經緯ハ之ヲ承知シ居リタルモ實ハ未タ詳細研究ノ機會ヲ有セサリシニ付其ノ内篤ト研究ノ上更ニ御協議致スヘキモ日本政府トシテモ本件ハ一部輿論ノ興奮ヲ來シタルコトニモアリ簡單ニ解決スルコト不可能ナル事情アルヤニ思料セラルト答ヘタル處兎ニ角貴大使ノ研究ヲ待チ「レジエ」ト充分意見交換ヲ試ミラル様致度シト述ヘタリ在歐米各大使ヘ轉電セリ

(欄外記入)
本件ハ極東ニ於ケル日本ノ地位ニ關係スル問題ニシテ当分譲歩セサルコト可然

3 南米移民関係

622 昭和8年4月11日 在ブラジル林大使より
内田外務大臣宛(電報)

日本軍部がブラジル行移民を滿洲に振向けと
の反日的内容のU.P.電について

別電 四月十一日発在ブラジル林大使より内田外務
大臣宛第四七号

右記事内容

リオ・デ・ジャネイロ 4月11日後発

本 省 4月11日後着

第一四六號
(四六九)

當地新聞ハ大要別電ノ如キ東京發U.P.電報ヲ特別活字ヲ用ヒテ掲載シタルカスル通信ハ伯國人ニ面白カラサル印象ヲ與ヘ我レニ不利ナル結果ヲ齎ス惧アリテ注意ヲ要スルモント思考セラルルニ付御参考迄電報ス

聖市へ暗送セリ

十 雜 件
(別電)

第四九號

623 昭和8年4月11日 在ブラジル林大使より
内田外務大臣宛(電報)

ブラジル移民の送出と軍部とを関連させるよ

うな言動は慎むよう稟請について

リオ・デ・ジャネイロ 4月11日後発

本 省 4月12日後着

在亞爾然丁公使發責大臣宛電報第四二號ニ關シ

該通信ハ幸ニシテ無電聯絡不完全ノ爲當地新聞ニハ掲載セ

「ユウ、ピー」社電報ニ關スル評論（往電第四八號）モア

リ旁激烈ナル評論ヲ誘發シ我力移民事業ニ惡影響ヲ及ホシ

タルヤモ計リ難シ目下當國官民ハ頗ル疑惑ノ念ヲ以テ我國ノ態度ニ注意シツツアル際伯刺西爾行移民ト軍部トノ間ニ何等カノ關係アルカノ如ク思ハシムル言動ハ極力之ヲ慎マレタシトスル山崎公使ノ電票ハ本使モ衷心ヨリ同感シ居ル處ナリ然ラサレハ自ラ進ンテ本邦移民反對ノ種子ヲ播キ自繩自縛ノ窮境ニ陥ルコト無キヲ保セス此ノ點充分ノ御考慮ヲ拂ハレンコトヲ希望ス

亞ヘ轉電セリ

624 昭和八年四月17日

内田外務大臣より
在メキシコ伊勢川(実)總領事館事務
代理他宛

我が國現下情勢に鑑み在外邦人の指導啓發に

善処方訓令

通三機密合第四〇二號

昭和八年四月十七日

外務大臣伯爵 内田 康哉

在メキシコ

總領事館事務代理 伊勢川 實殿

在外邦人の指導啓發ニ關スル件

在外本邦人ノ發展状勢如何ハ其ノ第二世ノ動向並向後邦人ノ進出ニ重大ノ牽聯ヲ有スルハ固ヨリ直接其ノ在住國ト帝國間ノ國交及通商ニ甚大ノ影響ヲ與ヘ帝國國運ノ將來ニ關係スル所鮮少ナラサルニ鑑ミ其ノ指導啓發並之力誘掖助成ノ必要ナルハ謂フ迄モ無キ義ニ有之貴館ニ於テモ近年管内在留民数ノ漸増ニ伴ヒ内外各種ノ事案益々繁キヲ加フル時ニ當リ右ノ趣旨ニ閑シテハ豫テ御留意ノ上館員ト共ニ益々御精励ノ事ト信スル處指導啓發モ其ノ當ヲ得サレハ却テ在留邦人間ノ統制ヲ乱スノ惧アリ又誘掖助成モ其ノ途ヲ謬ラハ在留民ノ倚頼心ヲ助長スルモノ可相成去リ逆餘リニ慎重ニ過キ消極ニ失スレハ在留民ノ利害ニ疎隔冷淡ナルノ譏ヲ受クルヲ不免要ハ大局ニ立脚シ努メテ在留民ノ利益ヲ擁護伸展シ以テ彼我國交及通商ノ增進ニ資スルニ在リト思考ス然レトモ之カ實際ノ取扱ハ必スシモ容易ナラス経費及

職員ノ増額擴張等ニ俟ツヲ要スルモノ多々アルヘキモ例ヘハ言語及土地事情等不案内勝ナル我在留民ニ對スル我在外

職員ノ聊カノ助言モ多大ノ利便ヲ與フル等職員各自ノ心情

ト努力ノ如何ニ依ルモノモ可不尠加フルニ我國現下内外ノ情勢ハ一層各員ノ奮勵努力ト官民ノ協力一致二期待スルモノアルノ秋ニ方リ貴官ハ此ノ際右趣旨ニ依リ館員ヲ督励シ在留邦人ノ指導統制並其ノ啓發向上方ニ関シ貴地ノ事情ニ適應シタル方法對策ヲ講シ進ンテ之ニ善處セラルヽ様致度就テハ右指導啓發等ニ関スル貴館ノ現行方針將來行ハントセラルヽ具体的對策及右實行上本省ニ對スル希望等詳細御報告相成度此段申進ス

本信送付先 在中、南米及南洋各館

編注 本信は、在中南米全十三の（総）領事および在南洋六（総）領事に送付された。

（総）領事に送付された。

625 昭和八年四月26日

在ブラジル林大使より
内田外務大臣宛（電報）

ブラジル行移民を滿州へ振分けとの報道の正

626 昭和 8 年 5 月 3 日 在 ブラジル 林大使より
内田外務大臣宛(電報)

新憲法草案起草委員会分科会で採用された移
民関係条項草案について

リオ・デ・ジャネイロ 5 月 3 日前發
本 省 5 月 4 日前着

第六七號

新憲法草案起草委員會ノ分科會ハ客年十一月以來凡ソ五十
回ノ會合ヲ經テ五月一日全部ノ討議ヲ終リタルカ最終會議
ノ際移民ニ關シ左記ノ如キ條項草案中ニ採用セラルルコ
トトナレリ

一、移民入國ノ個人的條件ヲ定メ人種改良其ノ他國民ノ利益
ニ有利又ハ有害ト認ムル大衆移民ヲ獎勵若ハ制限シテ外
國人ノ入國ヲ規律スルコトハ聯邦法ニ依ル

二、國ノ經濟力發展ノ爲ニ田園ニ定着セシムル意義ニ於
テ法律中ニ農村政策ノ方針確立ヲ期スヘシ

三、右目的ノ爲州ニ屬スル未墾地及留保地ニ植民ヲ行ヒ又之
ヲ利用スル全般的計畫ノ規準ヲ聯邦法中ニ定ムヘシ但シ
聯邦ノ採用セル方針ニ準據スルニ於テハ地方的企畫ヲ爲

之等條項ハ分科會ニ於テ議了シタル他ノ條項ト共ニ一應整
理ヲ行ヒ且ツ全委員ノ可決ヲ經タル上憲法草案トシテ發表
セラルヘク又之ヲ基礎トシテ新憲法制定ノ任ニ當ルヘキ議
會ハ五月三日ノ代議員選舉後其ノ投票審査結了ヲ俟テ召集
期日ヲ定メラル順序ナルモ右不取敢電報ス
「サンパウロ」ヘ暗送セリ

627 昭和 8 年 5 月 10 日 在 ブラジル 林大使より
内田外務大臣宛

(欄外記入)
満州事変後のブラジルにおける排日運動の動
向について

公機密第五八號

(6 月 24 日接受)

スコトヲ妨ケス

四、移民ノ集地ニ關シ植民地帶ヲシテ國ノ一部ニアラサルカ
如キ體裁ヲ有セシメサル爲必要トスル方法ヲ聯邦法ヲ以
テ定ムヘシ國語ノ教授ハ常ニ之ヲ義務的トスヘシ

五州有地及聯邦ノ所有スルコトアルヘキ土地ニ植民スルニ
ハ國境ニ關スル條文ノ規定ヲ遵守シテ内國勞働者ヲ先ニ
スヘシ

伯國ニ於ケル一部人士ノ本邦移民反對意見ハ從來多クハ間
歇的ニ發表セラレタルヲ以テ單ニ表面ニ現ハレタル事實ノ
ミヲ基礎トシテ判斷ヲ下ストキハ一見偶發的現象ニ過キサ
ルカノ如ク思惟セラルモ深ク裏面ノ實情ヲ探查スルトキ
ハ伯國人中眞ニ排日家ト稱スヘキ者ハ幸ニシテ其ノ數未タ
多カラサルモ其ノ間ニ永續一貫シテ流ルル所ノ一條ノ暗流
伏在シ何等力ノ動機カ少シニテモ之ニ衝動ヲ與フルニ於テ
ハ忽チ奔騰シテ表面ニ溢出シ輿論ヲ刺戟シテ言論界ニ排日
論ノ頻發ヲ促ス次第ナルコトハ數年來屢次當館ヨリ報告セ
ル所ニヨリ御承知ノ通ニシテ尙此ノ排日運動ノ主腦者ト目
スヘキ一派ノ最近ノ言動ニ關シテハ客年十月十二日附通三
機密第一四八號拙信ヲ以テ具報シ置キタリ

伯國人中ノ本邦移民反對論者カ從來提唱シタル理由ハ區々
件十 雜

者尠カラス要スルニ近來ノ日本移民反対理由ハ不同化性乃至人種改良分子トシテノ不適性等人種ノ相異ニ基クモノヲ主トシ之ニ保健上ノ理由ヲ幾分加味セルモノト見ルヲ得ヘク我移民ノ大數入國ヲ政治的ニ危険視スル論者ハ從來其ノ數極メテ少ク從テ此ノ理由ニ基ク排日論ハ頗ル影薄キノ觀アリタルモ一昨年ノ滿洲問題發生以來我國ヲ以テ徹頭徹尾帝國主義ヲ奉スル軍閥跋扈ノ國ナリトン或ハ支那及國際聯盟ニ對スル我國ノ態度ヲ憤ルノ餘リ極端ナルハ排日家トナリ然ラサルモ我國ニ對シテ好感ヲ抱カサルニ至リタル伯國人士決シテ尠シトセス而シテ此等ノ人士就中從來既ニ排日ヲ標榜シタル人々ニシテ日本政府ガ多額ノ費用ヲ投シテ伯國行移民ヲ極力獎勵シツツアルハ何等カノ政治的野心ニ基クモノニアラスヤトノ危惧ノ念ヲ抱キ若ハ既ニ抱キタル念ヲ益強メ日本ノ如キ强大國ヨリノ大衆移民誘入ハ速ニ之ヲ阻止セサレハ將來甚タ憂慮スヘキ結果ヲ生スヘシト論スルモノアルニ至レリ即チ滿洲問題ハ伯國ニ於ケル排日論者ニ新ニ一ノ有力ナル理由ヲ與ヘ且排日熱ヲ高メシムル爲メニ役立チタルモノト評スルヲ妨ゲス

今其ノ顯著ナル一實例ヲ舉クレハ當國新聞ノ泰斗ジヨルナ

係少キ極東問題ニ注グノ違ナキ等ノ理由ニ依リ幸ニシテ輿論ヲ喚起スル程度稍低カリシモ而カモ排日氣運ヲ濃厚ナラシメ其ノ鋒先ヲ先第一ニ日本移民ニ向ケントスルニ至レルヲ以テ本邦移民反對論者ノ氣勢ハ恰モ乾燥シ切リタル草ノ如ク一片ノ燐寸ヲ投スレハ忽チ炎上スヘキ危險狀態ニ逼レリ而シテ此ノ乾草ニ最近投下セラレタル一片ノ燐寸ヲ四月八日東京發ユーナイテツド・プレスノ電報通信トス其ノ電文ハ

伯國行日本移民ヲ滿洲ニ轉向セシメントスル運動增大シツツアリ在滿洲日本陸軍ニ於テハ移民部ヲ設ケ且來年度ノ豫算中ニ伯國行移民補助費トシテ計上セラレタル金額

ヲ滿洲國行移民ノ資金融通ニ適用セソコトヲ慾通セリ

日本陸軍ノ意見ニ依レハ日本力聯盟ヲ脱退シタル上ハ其ノ國人ヲ伯國ニ移民スルコトハ最早勸奨スヘキニアラス何トナレハ若シ世界ノ外交的反日運動力進展スル場合不利ニ陷ルヘキカ故ナリ之ニ反シ滿洲國ニ向フ移民ハ歡迎セラレタル上ニ尙皇軍ノ適當ナル保護ヲ受クヘシ

トノ一見甚タ無邪氣ナルカ如キ報道ナリト雖モ伯國人ニトリテハ其ノ親日家タルト否トヲ論セス一般ニ一讀不快ヲ感

ル・ド・コメルシオカ從來ノ親日態度ヲ急ニ一變シテ最近屢排日的記事評論等ヲ掲クルニ至リタルハ客年十一月十六日附公機密第一七〇號往信既報ノ如ク社長フエーリス・パチエコ氏ガ所謂田中内閣上奏文ナルモノヲ閱讀シタルコトハ主因ラシク（其後探聞スル所ニ據レハ該文書ハ客年四月頃サンパウロ市ノ各新聞社宛ニ何レカヨリ郵送セラレタル細亞ノ覺醒』及『亞細亞ノ暴風雨』ト題スル二種ノ葡文書籍中ニ挿入流布セシメラレタリ）我方トシテハ右文書ノ偽造ナルコトヲ世人ニ周知セシムルタメ客年十一月十六日附公機密第一七〇號往信既報ノ如キ措置ヲ執リタルモ如何セシ其後ニ於ケル滿洲事變ノ發展ハ該偽造文書ニ記載セル所ヲ事實ヲ以テ裏書セルカ如キ結果トナレル爲メ同社長ノ如キハ益其ノ排日態度ヲ鮮明ニシ同新聞ニハ本邦ノ利益トナル如キ記事論說ハ一切掲載スヘカラスト部下ニ再三命令ヲ下シタル趣ナリ

本邦ノ對滿及對支行動竝之ニ伴フ國際聯盟脫退ハ伯國力既ニ脫退國ナルコト又國內ノ政爭ノ爲ニ多クノ注意ヲ利害關係

セサルヲ得サル底ノモノニシテ日本移民ヲ贊成若ハ歡迎シツツアル人々ハ日本力滿洲ノ爲ニ伯國ヲ袖ニスルコトヲ不満乃至遺憾トスヘク又排日家ハ日本力果シテ滿洲ニ對スルト同様ノ企圖ヲ以テ伯國ニ大數ノ移民ヲ送出シ而シテ其ノ背後ニ軍部ノ支援アリトセハ大ニ警戒ヲ要ストノ念ヲ益强大ナラシムルヤ必セリ右ハ單ナル推測ニ止マラス實際此等兩様ノ感想力新聞ノ評論トナリテ現ハレタル次第ハ往電第四六號、第四八號及第五三號ヲ以テ報告シ置タル通ニシテ本件ニ關シ伯國人ノ誤解ヲ避クル爲メ我方ニ於テ不取敢實行シタル對策ハ去四月二十六日附通三機密第五一號公信ヲ以テ具報セル所ノ如シ

次ニ公衆保健上ヨリ眞劍ニ重大理由ト認メ若ハ既ニ抱ケル排日意見ヲ高唱スル爲ノ好箇ノ口實トシテ本邦移民ノ衛生狀態不良ナルヲ非難攻撃シタル最近ノ實例トシテハ往電第五六號及第五八號ヲ以テ不取敢報告シ置キタルりおでじやねいろ丸輸送移民ノ件ヲ舉グルコトヲ得ヘク更ニ既往ニ遡リテ幾多ノ實例中顯著ナルモノニ三三ヲ數フレハ大正十四年ニハ我國ノ一部ニ先づ嗜眠病（脳脊髓膜炎）、續イテ虎疫流行セリトノ新聞電報カ傳ハリタル丈ヶニテ尙且日本移民

反對論ノ頻發ヲ見タル上サンパウロ州衛生局長パウロ・ソウザ氏ヨリ日本移民ハ性質未詳ノ一種ノ病菌保有者ナルヲ

以テ其ノ入國許可ヲ見合ス方然ルヘシトノ意見ヲ州政府ニ上申シ該上申ハ聯邦政府ニ進達セラレタルコトアリ越ヘテ昭和二年ニハウ・パイース新聞ニ衛生醫セバステイアン・

バルローゾノ日本ニハ二十種以上ノ寄生蟲病アルヲ以テ乗船前伯國衛生醫ヲシテ検査ヲ行ハシメタル上伯國ニ到着ノ際更ニ嚴重ナル衛生検査ヲ行フ必要アリトノ論說現ハレ昭和三年七月ニハリオニ入港シタル若狭丸検疫ノ際傳染病ノ疑アル患者アリテ一時交通遮斷ヲ命セラレタルコトガ動機トナリ諸新聞ニ日本移民誘入ヲ不可トスル論說掲ケラレ同

年はわい丸伯國ニ向ケ印度洋航行中輸送移民ノ間ニ虎疫患者ヲ出スヤ當國ノ輿論ハ明ニ同船ノ入港及移民ノ上陸ヲ拒ムモノト觀測セラレタル結果中途ヨリ一旦之ヲ本邦ニ送還セシメタルニ拘ラス新聞紙ノ評論ノ目的トナリ殊ニ昭和五年中鎌倉丸及もんてびでお丸カ多數ノトラボーム移民ヲ搭載シ來リ衛生検査ノ結果前者ハ家族トモ八十八名後者ハ同百二十九名ノ本國送還ヲ餘儀ナクセラレタル等伯國官民力保健上ヨリ我移民ニ對シ深甚ノ注意ヲ拂ヒ排日家ハ之ヲ理

由トシテ我移民誘入ニ反対セントノ意圖アルヲ察スルニ難カラス

加之近年歐洲移民ノ入國數激減セルニ反シ我移民ハ漸進的ニ増加シテ入國移民統計上國籍別トシテ上位ヲ占メ一般世人ノ注意ヲ惹クニ至レルト共ニ益排日家ノ神經ヲ尖ラシメ居レル際ナルヲ以テ僅ニ上記ノ如キ新聞電報若ハ移民衛生

狀態不良ノ報道ノ如キ一小石ヲ投スルモ其ノ波紋ノ及フ範圍ハ意外ニ廣ク決シテ油斷スヘカラサルヲ以テ當館トシテハ常ニ輿論ノ善導ヲ怠ラサルト同時ニ上記ノ如キ動機ニヨリ輿論ノ惡化セントスル場合ニハ之ニ對シテ最善ト思料スル對策ヲ臨機講シ來レル爲幸ニシテ今日迄ハ其ノ延燒擴大ヲ防止シ得タル次第ナルモ事件發生後ニ當方ニ於テ執ル所

ノ對策ナルモノハ畢竟スルニ病ムテ後ニ治療ヲ行フノ類ニシテ我國ニ於テ其ノ病根ヲ絶ツノ勝レルニ如カサルヲ信ス而シテ其ノ方法トシテハ在本邦外國通信員ノ操縱、移民ノ嚴選、宣傳上ノ注意等ヲ主トスヘク從來伯國ニ於テ對日物議ノ種子トナリタル新聞電報カ十中八九ユーナイテツド・プレスニヨリ供給セラレ居ル事實ニ鑑ミ特ニ同社通信員ニ對シテハ今後一層ノ御配慮ヲ煩ハシ度ク尙在亞山崎公使發

貴大臣宛電報第四二號記載ノ我伯國行移民ト軍部トノ間ニ連絡アルカノ如ク思ハシムル行動ヲ始メトシ伯國ニ新日本建設ヲ高唱スル如キ移植民勸誘ノ宣傳ハ何時カハ當國人間ニモ知悉セラルル機會アルヘク從テ排日ノ動機トナルヘキ

可能性ヲ有スルモノナルニ付之力適當ナル取締方に就テモ充分御注意相成ル様致シ度事情具報旁右卑見上申ス
本信寫送付先 在サンパウロ 内山總領事

(欄外記入)
要注意
内ム省ヘモ

編注 △印に対応して、「△ 情報部 注意」との欄外記入あり。

628 昭和8年11月17日 在ブラジル林大使より 広田外務大臣宛(電報)

非発表のはずの日本人移民数についての報道

(欄外記入)
要注意
内ム省ヘモ

第一四九號
往電第一四七號ニ關シ
革命後伯刺西爾ハ我國ニ對シテノミ集團的移民誘入ヲ許可シ來レル姿ナルカ爲外國ノ嫉妬並伯刺西爾人中屢異論ヲ唱フル者アルニ鑑ミ政府當局ハ毎年ノ誘入許可ニ際シ世間ノ視聽ヲ刺戟セサル様注意ヲ加ヘ今回許可シタル明年度移民誘入數ノ如キモ實際之ニ關與シタル少數者以外ニハ當國人ト雖未タ之ヲ知ル者無キ時ニ當リ十六日東京「ハバス」電報ハ明年中二萬七千人ノ移民誘入許可ヲ報シ當事者ヲシテ意外ノ感ヲ起サシメツツアリ蓋シ伯刺西爾當局カ相互ノ利益ヲ慮リ特ニ深甚ノ注意ヲ拂ヒテ發表ヲ避ケツツアル次第ハ海興當事者ノ知悉スル處ナルニ貴地ニ於テ宣傳的ニ發表セラレタル爲我方カ先方ノ好意ヲ無視セル結果トナリ其ノ無思慮輕率ハ對伯移民政策ノ爲ニ眞ニ遺憾トスル處ナリ殊ニ恰モ開會セラレタル憲法制定議會代議員中ニハ夙ニ排日家トシテ知ラレタル「コウト」博士ヲ初メ「オリベイラ、ビアンナ」「シャビエル、デ、オリベイラ」等アリ就中

「コウト」ハ新憲法中ニ本邦移民制限ヲ目的トスル何等力ノ規定ヲ設ケンコトヲ企圖シ多年指導シ來レル自己ノ日本ノ移民反対説ヲ纏メタル一書ト一ノ新冊子ヲ非賣品トシテ出版配布スル等頻リニ活躍セル矢先ナルヲ以テ明年度本邦

移民誘入許可ノ報道ハ是等排日家ノ神經ヲ鋭敏ナラシメ結局我ニ不利ナル結果ヲ齎スコト無キヤヲ惧ル要スルニ當國

ヘノ我移民誘入ヲ永續セシメントスルニハ伯刺西爾官憲ノ意繙ヲ察知シ其ノ感情ヲ害スルカ如キ言動ヲ絶對ニ慎マサルヘカラス今回ノ發表ノ如キ本邦ニ於テ之ヲ不可避トスル特殊ノ事情無キ限り伯刺西爾當局ノ意繙ヲ無視シ之ヲ行ヘルハ頗ル不得策ナリシト思考セラルニ付今後斯ル輕舉ヲ繰返ササル様關係當事者ニ注意方特ニ御配慮相成度シ

聖市へ暗送セリ

(欄外記入)

用意ノ周到ヲ缺クハ遺憾ナリ此種電報ハ拓務ノ外大藏其他ノ関係方面ニ内容ヲ知ラセ注意ヲ喚起スルノ要アルベシ

629 昭和8年12月5日 在ブラジル林大使より
広田外務大臣宛(電報)
憲法制定会議への日本人移民制限条項を含む
修正案提出について
リオ・デ・ジャネイロ 12月5日後発
本 省 12月6日後着

第一五六號
排日ノ巨頭「コート」博士一派カ新タニ制定セラル憲法中ニ我移民ヲ目標トスル一條項ヲ挿入スル爲頻リニ策動シ居レル事情ハ客年十月十二日附通三機密第一四八號拙信及本年往電第一一六號往電第一一七號等ヲ以テ累次電報シ置キタルカ憲法制定議會議員トシテ選出サレタル「コート」ハ豫テ言明シ居リタル通り本邦移民制限條項ヲ含メル修正案ヲ議會ニ提出セリ

同人ノ修正案ハ審議ノ基礎案トスル目的ニテ政府ヨリ議會開會直後ニ提出シタル憲法草案ニ對シ修正及新タニ挿入セントスル事項十數項ヨリ成ルモノナルカ移民條項ニ付其ノ理由トシテ昨年六月三十日伯刺西爾醫學士院ニ於テ同人力演説シタル所(前顯拙信別紙甲號)ト大體同趣旨ノ事ヲ繰

返シタル後左ノ條文ヲ掲ケタリ(原文ニハ番號ナキモ便宜上)(二トス)

(一)阿弗利加人及阿弗利加起原ノ移民ハ之ヲ禁止ス亞細亞移民ハ國內ニ現在スル同移民ノ總數ニ對シ毎年其百分ノ五ノ比率ヲ限り同意ス

(二)州ハ本條ノ規程ニ反シテ移民誘入ヲ契約スル事ヲ得ス即チハ十年前下院ニ提出セラレタル「レイス」移民法案第五條ト實質上全然同一ニシテ單ニ用語ヲ異ニセルニ過キス其ノ本邦移民入國制限ヲ主眼トスル點ニ於テ彼我選フ所ナシト雖一旦制定セラレタル時ハ普通法律ト異ナリ改正至難ナル憲法中ニ斯カル條項ヲ挿入セントスル今回ノ「コート」案提出カ我方ニトリ「レイス」案以上ノ重大性ヲ帶フル事ハ申ス迄モナキ處ナリ

依テ「コート」案カ憲法草案ニ對シ多數ノ他ノ修正案ト同シク憲法起草委員會(廿六名委員會)ノ審査ニ附託シテ採擇スヘキモノナリヤ否ヤノ意見ヲ徵スル順序ナルヲ以テ先ツ差當り出來得ル限り同委員會ニ於テ移民制限條項採擇反

件
雜
十
對意見ヲ議決セシムル様目下專心手配中ナリ

「コート」修正案ニ移民制限條項含マレ然モ其(目)標力
第一六〇號

630 昭和8年12月26日 在ブラジル林大使より
広田外務大臣宛(電報)
日本人移民制限条項を含むコート議員修正案の動向について

リオ・デ・ジャネイロ 12月26日後発
本 省 12月27日後着

往電第一五六號ニ關シ

「コート」氏案（修正案第二一號）ニ引續キ修正案提出逐日增加シ十二月二十三日ノ締切迄ニ總計千二百個以上ノ多數ニ上レルヲ以テ特ニ「コート」氏案ニ對シテ注意ヲ拂フモノ無ク新聞紙上僅カニ一回簡單ナル評論現レタルノミニテ幸ヒ殆ト反響無シ

政府提出ノ憲法草案ニハ第三十三條議會ノ權限中ニ移民ニ關スル立法ハ聯邦議會ニ屬スル旨規定セル外往電第六七號既報ノ移植民條項ヲ改作シタル第百二十八條及補款三ヶ條ヲ含ミ同補款第二ニ於テ「聯邦法ハ國利ニ鑑ミテ入移民及出移民ヲ禁止制限若ハ獎勵スヘシ」トノ規定アリ

二十二日迄ノ「議會報」ニ掲載セラレタル八百有余ノ修正案中移植民ニ關スルモノ六個アリ其ノ第一ハ理由トシテ帝國主義ノ二大國タル日米兩國ノ「アマゾン」地方ニ於ケル大規模ノ發展計畫ヲ云々セルモ提案自体ハ外國人ノミノ移住集團地ヲ設置セシム可カラストノ趣旨ニテ憲法中ニ一個條ヲ挿入セントスルニ過キス第二ハ理由書中ニハ「コート」一派ト同シク同化シ難キ異人種タル日本移民ノ多數入國ヲ云々セルモ條文ハ伯刺西爾ノ人種系確立ヲ適當ナル立法ニコト

同一方針ニ據ランコトヲ屢々公言シタルコト

三、政府ハ其ノ提出シタル草案ニ若干ノ修正ヲ加ヘタル程度

ノ憲法制定ヲ希望シ居ルヲ以テ委員會力無數ノ修正案中ヨリ採擇スル條項ハ極メテ少ナキモノト豫想セラレ居ルコト

四、委員會ハ大量ノ修正案審査報告ノ爲ニ僅カニ三十日ノ期間ヲ有スルニ過キス從テ修正案各個ニ對シ意見ヲ附スルコト不可能ナルヲ以テ枝葉ノ小問題ニ觸レス真ニ重要ト認メラル條項ノミヲ採擇シテ一ノ憲法原案ヲ作成スルコトニ最近内定シタル趣ナルコト

五、「コート」氏案中移植民制限條項ハ苟モ常識アル者ハ普通立法ヲ以テ規定スヘキ事項ト認メ居ルコト

六、「コート」ノ移植民制限條項ハ明カニ草案ノ規定ト背馳スルノミナラス現ニ多數ノ日本移民誘入ヲ許可セル政府ノ移民方針ト相容レサルヲ以テ此ノ點ヨリ見ルモ委員會ニ於テ採擇セラルル可能性ニ乏シキコト

七、「コート」ノ移植民制限條項ニ對シテハ議員各個ノ意見ハ別トシテ「サンパウロ」、「パラー」及「アマゾナス」

三州ハ何レモ州ノ利益ニ鑑ミテ反對スヘク他ノ北部諸州件

依リ促進スヘシ又或一人種若ハ一國民限りノ多人數集團ヲ防止スヘシトノ趣旨ニシテ「コート」氏案ノ如ク我ニ不利ナラス第三ハ草案第百二十八條補款第二ノ字句ヲ修正シタル上之ヲ一一條ニ昇格セシメントスルモノ第四ハ元老「アツシスブラジル」外二名ノ連署ニシテ出移民及入移民ニ關スル立法ヲ聯邦ノ權限トスル一條ヲ含ミ第五ハ「サンパウロ」州選出議員全部（前記第三一五號ノ提出者ヲ含ム）ノ連署ニ係リ草案第百二十八條補款第二ニ對シテハ殆ト以下ニ影響無キ字句修正ヲ行フモノトス尙第六ハ同一章中ノ他ノ十三個條ト合セテ草案第百二十八條ヲ削除セントスルモノナリ

故ニ草案中ノ移植民條項カ其ノ儘原案ニ採用セラルルカ又ハ六個ノ修正案中何レカ一個力採擇セラルル時ハ（第五ハ採擇セラルル可能性最モ多キカ如シ）「コート」氏案ハ自然ニ消滅スヘキ立場ニアリ加之

一、政府ハ最初ヨリ憲法中ニ普通立法ノ範圍ニ屬スル事項ヲ混入セシメサル方針ヲ採り來レルコト
二、委員長「カルロスマキシミリアノ」博士ハ屈指ノ憲法學者ナルヲ以テ草案起草ノ際ニモ委員ノ一名ナリシカ之亦

モ日本移民ニ囑望セルモノハ同様之ニ反對スルモノト思考セラルルコト

諸般ノ事情ハ「コート」氏案カ委員會ニ於テ暗ヨリ暗ニ葬リ去ラル可キコトヲ期待セシム

但シ我方トシテハ此ノ期待カ裏切ラル場合ヲモ假想シ之ニ對シ措置ヲ講シツツアルコト勿論ノ儀ナルカ假ニ「コート」氏案カ委員會ニ於テ採擇セラレ憲法原案中ニ挿入セラレタリトシテモ該憲法第一次討論開始ハ早クモ二月初旬ナル可ク而シテ議事規定ニ從ヒ大体一章ツツ順次ニ討論シテ移民條項（第十二章末尾）ニ達スルハ三月頃ノ見込ナリ尙當地ト「ペレン」及「マナオス」間ニハ毎週旅客飛行機ノ定期往復アリテ急ヲ要スル場合ニハ直ニ歸還シ得ル便宜モアルヲ以テ本使ハ豫テ御許可アリタル「アマゾン」地方視察ヲ此ノ際決行スルコトトシ一月三日ノ便船ニテ出發ノ積リナルニ付右ニ御承知相成度シ「サンパウロ」ヘ暗送セリ

昭和8年12月28日 在ブラジル林大使より

広田外務大臣宛（電報）

日本人移民制限に関するコート修正案以外の

修正案について

リオ・デ・ジャネイロ 12月28日後発
本 省 12月29日前着

第一六四號

往電第一六〇號ニ關シ

二十七日迄ニ全部ノ發表ヲ見タル修正案中移植民ニ關係セルモノ尙六個アルモ我移植民ヲ目標トセルモノハ第一、「バイヤ」州選出議員「アルツール、ネイバ」カ州ノ同僚議員中十六名ノ贊成署名ヲ得テ第一二八條補款第二ヲ「入移民ハ白人種分子ニ限り許可ス國內何レノ地點ニ於テモ團体的集中ヲ禁ス」ト修正セントスルモノト

第二、「セアラー」州選出ノ「シヤビエール、サ、オリベイラ」提出ノ「定住ノ爲ニハ其ノ何レヨリ來ルヲ問ハス黒人種及黃人種分子ノ入國ヲ禁ス云々」ノ規定ヲ挿入セントスルモノ

トノニアリ

「ネイバ」ハ先年渡日シタル前後ニハ表面親日家ノ如ク裝ヒ居リタルモ元來排日家ニシテ往電第五一號「ア、ナソン」ノ排日論ハ當時社長タリシ同人力部下ニ命シテ書カシメタ

ルモノナリト公言セル位ニテ同人ノ性格ト其ノ表裏アル平素ノ行動トヲ知悉セル人々ニ取りテハ我國ヨリ敍勳サレタル同人カ右修正案ヲ提出シタレハトテ何等異トスルニ足ラサル處ナルカ其ノ長文ノ理由書中ニ「コート」カ其ノ冊子ニ唱道セルト同様、日本ノ帝國主義及之力表現タル滿洲問題ヲ例ニ引キ「アマゾニア」ヲシテ第二ノ滿洲タラシムルヘカラストセル一事ヨリ見テ滿洲事件カ右兩人ヲ始メ當國排日家ノ神經ヲ如何ニ刺戟シタルカヲ察知スルニ足ル又「オリベイラ」ハ客年通三機密第一四八號中ニモ報告セル如ク數年來札付ノ排日家ナリ

兩人ノ修正案ハ何レモ本邦移民ヲ全然禁止セントスル趣意ナルカ故ニ「コート」案以上ニ不利ナルコト勿論ナルカ當國ノ輿論ハ一種ノ制限ニ對シテハ寧ロ贊成ノ傾向アルカ如キモ絶對禁止ニ對シテハ却テ反對者多カルヘキ模様ナルカ上ニ修正案ノ審査方ニ關シ二十六日委員長ヨリ改メテ各委員ニ對シ修正案中普通立法ニ屬スル事項ハ如何ニ結構ナルモノト雖惜氣無ク切捨テ斷然憲法中ニハ挿入セサル様注意シタル次第モアリ右方針ノ徹底スル限り排日ノ修正案ハ委員會ニ於テ採擇セラルル見込ナキ形勢ナルモ尙萬一ノ場合

ヲ慮リ引續キ對策ヲ施シ居レリ
「サンパウロ」ヘ暗送セリ